



令和5年度 福島県中学校教育研究会音楽専門部

2024.3

音楽部報第57号

発行責任者 県中学校教育研究会音楽専門部長
事務局 福島市立福島第三中学校

湯田 公夫
本田 純也

音楽教育に「マスク」が残したもの

福島県中学校教育研究会
音楽専門部長 湯田 公夫

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置付けは「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」になりました。それに伴って、さまざまな制限が解除され、学校等では「4年ぶり」に各種行事が再開されるなど「かつての日常」を取り戻すための取組がなされてきました。

音楽教育においても「感染症対策を講じてもお感染のリスクが高い学習活動」に位置付けられていた合唱やリコーダー等の管楽器演奏ができるようになり、音楽室にも「かつての日常」が戻ってきました…と書きたいところですが、現実とは違います。

この4年間、子どもたちは、大きな声を出すことを禁じられ、息苦しさに耐えながらマスクを着用し続けてきました。

そんな子どもたちが、ある日突然「マスクを外して大きな声で歌いましょう」「みんなで声を合わせて歌いましょう」と言われても、本来積み重ねてくるはずだった「経験」がないのですから困惑するのは当たり前です。

この4年間に失われたもの（残されたもの）の大きさは計り知れません。それを最も強く感じているのが、音楽科の先生方なのではないでしょうか。

音楽室に「かつての日常」を取り戻すのは容易ではありません。しかし「スラムダンク」に登場する安西先生が言うように「あきらめたら、そこで試合終了ですよ…？」なのです。

あきらめの悪い音楽教師集団として、「音楽を愛し生涯にわたって音楽と関わり続ける人材」を一人でも多く育成できるよう、指導の在り方を一緒に模索していきましょう。それができるのが中教研です。

令和5年度は、いわき市立泉中学校を会場に、4年ぶりの対面方式で協議会が開催されました。同校の佐藤萌美先生には、副主題の「音や言葉及び言葉によるコミュニケーションを図る学習指導の工夫」を具現化した素晴らしい授業をご提供いただきました。いわき支部音楽専門部長の吉野敦広校長先生、会場及び授業をご提供いただきました泉中学校の設楽芳浩校長先生、佐藤萌美先生をはじめとする関係されたすべての先生方に、改めて感謝申し上げます。

音楽学習帳 活用のお願ひ

今年度も県内各地の先生方のご意見をいただき「音楽学習帳」の内容を一層充実させて出版することになりました。編集委員の先生方をはじめ、ご意見をお寄せいただいた皆様に御礼申し上げます。各学校の実態に応じて使えるよう「鑑賞」や「校内合唱コンクール」および「学習活動の記録」ページの刷新、生徒がファイルに綴じることを想定した「解答」のレイアウト変更、県内の音楽ホールに関する情報の充実など、より使いやすくなった「音楽学習帳」をご活用ください。

音楽学習帳編集委員会

事務局	編集委員	
湯田 公夫 (平野中)	遠藤 小織 (県北中)	野尻 寿子 (本宮二中)
佐久間 信 (松陽中)	渡邊 浩司 (富田中)	渡邊 勉 (須賀川一中)
瀧 薫 (信陵中)	村上 綾音 (浅川中)	伊藤 千佳 (三春中)
本田 純也 (福島三中)	坂本 榛香 (表郷中)	高橋小百合 (若松四中)
鈴木 祥子 (飯野中)	花泉 恵里 (喜多方三中)	小寺 真紀 (昭和中)
田口 紀子 (北信中)	山口 晃子 (下郷中)	森島さや香 (中村一中)
鈴木香世子 (福島四中)	片寄 和子 (磐崎中)	

令和6年度

研究推進計画

県中教研音楽部会研究推進委員会

1 研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導はどうすればよいか

2 令和5年度の研究成果と課題

「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る学習指導の工夫」を副主題として、各支部とも研究内容を明確に捉え、生徒や学校の実態に応じたより具体的な手立てを講じ実践された研究が数多く見られた。以下は、その成果と課題である。

○ 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る学習指導の工夫

県大会での佐藤萌美教諭（いわき市立泉中）の授業では、視覚的教材やタブレットの効果的な活用により、歌詞に対する自己イメージや感情、思いなどを他者と伝え合う活動が深まり、互いの考えを共有させたり、客観的に音楽を捉えさせたりすることにつながり、生徒の資質・能力を着実に育んだ実践が報告された。

● 題材構成の工夫の実践と研究

小学校6年間で培ってきた音や音楽を感じる力を生かしながら、題材を通して生徒に育みたい資質・能力を明確にする、指導内容や教材に関連付けていく必要がある。

3 年度ごとの研究副主題

○ 令和4年度副主題（第1年次）
実感を伴う理解による知識や技能の習得につながる題材構成の工夫

○ 令和5年度副主題（第2年次）
音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る学習指導の工夫

○ 令和6年度副主題（第3年次）
音楽に対する感性を豊かにする指導と評価の工夫

4 令和6年度の研究副主題について

「音楽に対する感性」とは…

音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るとき心の働き

「音楽に対する感性を豊かにする」とは…

生徒が、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき

例えば、三味線を用いた音楽とギターを用いた音楽についての学習で、生徒が、この2つは異なる音色であることを知覚し、それぞれの特質や雰囲気を感じる。

そのとき、

音楽に対する感性が働く

こうした学習を積み重ねることにより、「この音の方が自分にとって心地よい音だ」「この音楽の響きには豊かさが感じられる」といった意味付けが確かなものになっていく。そして、生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうことにつながっていく。

音楽に対する感性は豊かになる

このように、「音楽に対する感性」を豊かにしていくことは、音楽科の特質に関わる重要なねらいと言える。

また、生徒が自ら、「音楽に対する感性」を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などを関連付けて考えているとき、音楽的な見方・考え方が働いている。

「音楽に対する感性」を働かせた学習を積み重ね、豊かにする指導のためには、日々の授業において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な手立てを講ずることが指導の工夫の一つとなる。

(1) 具体的な指導について

音楽のよさや美しさなどについて、自分にとってどのような価値があるのかといった評価を言葉で表現させ、他者と伝え合い、論じ合わせるなどが考えられる。

(2) 評価の工夫について

次の①～③のポイントを参考にしながら、題材全体の学習指導における評価の位置付けや回数を適切に行うなどの工夫が考えられる。

- ① 評価の場面を精選する。
毎回の授業ではなく原則として題材や時間のまとまりごとに、それぞれの実現を把握できる段階で行う。
- ② 評価方法を工夫する。
多様な評価方法を適切に取り入れる。

演奏、作品、ノート、ワークシート、発表やプレゼンテーション、グループでの話し合いでの発言、活動時の観察、自己評価や総合評価、ポートフォリオなど

- ③ 生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確にする。
題材の学習内容を踏まえて適切に選択し、題材の評価規準の「思考・判断・表現」に位置付ける。

(3) 研究にあたって

音楽に対する感性を豊かにする指導と評価の工夫のためには、生徒や学校の実態に応じた上で、これまで取り組んできた実践の上に立ち、音楽に対する感性を働かせることができるような指導を積み重ねていくことが望まれる。

5 研究の内容・方法・留意点

(1) 領域

主題に迫ることができるように、表現や鑑賞といった領域を分けずに、各支部の実態に応じた研究を進める。

(2) 仮説やまとめ方

研究にあたっては、生徒の実態を捉えて具体的な仮説を設定することが望ましい。また、生徒の活動の様子や変容、研究の成果と課題がわかるようなまとめ方を工夫する。

6 今後の県大会開催方部と発表方部

年度	開催方部	発表方部
6	いわき	岩瀬 石川
7	相双	田村 東西しらかわ
8	会津	相双 いわき
9	県中・県南	福島 伊達

※ 令和6年度から県大会の開催方法が変更され、教科分散型となる。

- 令和6年度の音楽部会場
〈全体会・授業公開・研究協議〉
いわき市立小川中学校

7 参考資料

- 中学校学習指導要領
平成29年3月告示
文部科学省
- 中学校学習指導要領解説音楽編
平成29年告示
文部科学省
- 「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料
【中学校音楽】

令和2年3月発行
国立教育政策研究所

(4)

令和5年度
県中教研音楽専門部組織

◆ 組織

役職名	支部名	氏名	勤務校
部長	福島	湯田 公夫	平野中
副部長	郡山	安田 良一	熱海中
	東西しらかわ	金川 純	西郷二中
	北会津	安齋 敦	河東学園
	いわき	吉野 敦広	好間中

◆ 支部音楽専門部長

支部名	氏名	勤務校
福島	湯田 公夫	平野中
伊達	佐久間 信	松陽中
安達	矢吹みのり	大玉中
郡山	安田 良一	熱海中
岩瀬	邊見 浩	小塩江中
石川	大高 文雄	古殿中
田村	佐久間 誠	常葉中
東西しらかわ	金川 純	西郷二中
北会津	安齋 敦	河東学園
耶麻	佐藤 容子	喜多方一中
両沼	小寺 真紀	昭和中
南会津	松村 圭祐	荒海中
相双	小林 喜徳	鹿島中
いわき	吉野 敦広	好間中

◆ 事務局

役職名	支部名	氏名	勤務校
総務	伊達	佐久間 信	松陽中
庶務	福島	本田 純也	福島三中
研究推進	福島	田口 紀子	北信中
		鈴木 祥子	飯野中
会計	福島	鈴木香世子	福島四中
学習帳編集	福島	瀧 薫	信陵中

以上の組織により、令和5年度運営をしてまいりました。ご協力ありがとうございました。

令和5年度
事業報告

- 5月11日(木) 総会(青少年会館)
支部専門部長会
(福島市立平野中学校)
- 5月 下旬 主題研修報告会(各支部)
- 7月 下旬 支部研究協議会(各支部)
- 9月 8日(金) 県音楽祭第1部〈合唱〉
(須賀川市文化センター)
- 10月 5日(木) 県中教研いわき大会
(いわき市立泉中学校)
- 10月13日(木) 県音楽祭第2部〈合奏〉
(白河文化交流館コミネス)
- 11月 中旬 県音楽祭第3部〈創作〉
- 2月 下旬 県中教研音楽部会報発行

令和6年度
事業計画

- 5月10日(金) 総会, 支部専門部長会
(福島市)
- 5月 下旬 主題研修報告会(各支部)
- 7月 下旬 支部研究協議会(各支部)
- 9月10日(火) 県音楽祭第1部〈合唱〉
(ふくしん夢の音楽堂)
- 10月 4日(金) 県研究協議会県大会
(いわき市立小川中学校)
- 10月11日(金) 県音楽祭第2部〈合奏〉
(喜多方プラザ)
- 11月 中旬 県音楽祭第3部〈創作〉
- 2月 下旬 県中教研音楽部会報発行

事業計画につきましては、各部の日程調整が済み次第明らかになりますので、現段階では大体の目安としてください。